

発行

山形大学農学部鶴窓会

発行日 2013年12月10日

第20号

山形大学農学部鶴窓会
〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
山形大学農学部内

TEL・FAX 0235-28-2897

ホームページ kakusokai.net
E-mail kakusokai@kdp.biglobe.ne.jp

鶴窓会だより

題字：元会長 佐藤 輝康氏 書



鶴窓会だより 第20号発刊に寄せて

山形大学農学部鶴窓会

会長 佐藤 農一

(昭和41年農学科卒)

会員の皆様にはますます
ご清祥にてご活躍のことと思
います。「鶴窓会」が発足したの
は昭和25年3月の農林専門学
校第一回卒業式時のことで、県
立農林専門学校、山形大学農
学部並びに大学院農学研究科
出身者の同窓会組織でありま
した。当時は初代会長を石川
初代校長になつていただいた経
緯があります。「鶴窓会」の歴
史として本部より支部独自活
動が活発であったことが記録
として残っています。



雪化粧の鳥海山(撮影平成25年10月19日)

その後、昭和54年山形大学
農学部創立30周年記念事業
を経て、昭和55年発足の「農学
科の会」など幾多の変遷を経
て、現在の組織体制となつて本
年19年目に入ります。平成7
年3月に「鶴窓会だより」の名
称で創刊号を発刊し、平成25
年12月に「鶴窓会だより」20号
を発行しようとしています。
各方面でご活躍されている会
員相互のネットワークやその拡
大にお役に立つことを願ってい
るところです。

本年度の代議員会(総会)で
は学生研究支援事業について
の質疑が多くだされたように
思います。研究内容や採択要
件などですが、この事業が始
まったのは平成21年からで農
学部支援事業の環として5
年目となります。同窓生が事
業を展開する中での研究課題
と農学部での研究課題がマッ
チングすることの願ひであつたが、
最近ではこのような応募はな
く研究室の卒論を対象にした
応募になっています。平成23年

以降10、12、13課題が採択され
ています。課題内容や5万円
単位の支援(20年会費還元
の意図もあつたと聞いている)の
有効性が議論されました。内
容は各研究室が掲げる研究
シーズ集に準じて多岐にわたつ
ています。当初のマッチングの視
点では、関心のある課題を意
識した場合、ホームカミング
デーなどは研究連携を発展さ
せる良い機会になると思ってい
ます。

平成25年6月21日、年度を
越した農学部地域連携推進協
議会が開かれた際に、委員長
である(株)前田製管相談役の
前田直己氏からは地域に果た
す農学部の姿をアピールする
ためにも来年秋に山形県で開
催される第38回全国育樹祭
(金山町)などは良い機会にな
ることを提言されました。
春の植樹祭とともに森林の涵
養に向けて果たす役割は大きい
と思います(CO2濃度低下)。
最近の常態化しつつある異常
気象には地球の温暖化が大き
く影響している指摘もありま
す。温暖化と樹木年輪の変化
をテーマにした支援課題もあつ
たし、また海岸防災林の機能
解明などその成果が待たれて
います。宮城県支部総会では
東日本大震災後の海岸防災林
植樹について河野裕氏(50年林
学卒)が講演されました。

代議員会では会費の健全性
についての質疑もありました。
一般会費と20年会費(特別会
計)の会計構造から将来にわ
たる会費収入を試算しておく
ことの必要性を問われたこと
です。

さらに、健全性についてはどう
保たればよいのかいろいろ議論
の余地があると思います。

内容は賛助会員という表現
でしたが、現行会則では研修
生及び賛同者となつており、趣
旨としては終身会員の創設を
訴える内容と受け止め、先の
試算を踏まえ、また事業の健
全性について事務局として議
論していきたいと考えており
ます。

「鶴窓の森」をいこいの広場
として利用しやすい環境にす
るため、本年度は「ポポー」の木
を植樹しました。馴染みのない
木ですが、鶴岡市内にも成木
として育っており、日陰をつく
る樹として期待されます。熱
帯原産のバンレイシ科では珍し
いカナダ温帯が原産で、低温に
も強く、アケビに似た果実をつ
けます。なお、植樹に関して
は、北海道支部が来年創立25
周年にあたり、記念にキャンパ
ス内へ植樹したい意向のあるこ
とも紹介します。

(平成25年9月20日記)

目次

会長挨拶	鶴窓会会長 佐藤 晨一(昭和41年卒)	1
特集 学部学科編成について	学科長(学務委員長) 小沢 互	3
退職に寄せて		6
安藤 豊	6	
大久保 博	7	
着任の挨拶		8
森 茂太	8	
小林 隆	8	
星野 友紀	9	
江成 広斗	9	
松本 大生	10	
特別会員の声		10
金内 英司(昭和25年卒)	10	
塚原 初男(昭和32年卒)	11	
学生研究支援事業報告	鶴窓会副会長 齋藤 博行(昭和45年卒)	12
山形大学校友会の紹介	山形大学校友会事務局長 鈴木 英一	12
山形大学校友会支援事業「ビーチサッカー大会」の開催	校友会理事・鶴窓会副会長 齋藤 博行(昭和45年卒)	13
農学部大学祭「鶴寿祭」について	／	13
会員の声		14
菅野 義顕(昭和31年卒)	14	
大沼 幸男(昭和38年卒)	16	
芝山 一雄(昭和42年卒)	18	
阿部 重彰(昭和48年卒)	20	
赤松 博美(昭和51年卒)	21	
伊川 慶一(昭和53年卒)	23	
奥泉 久人(昭和61年卒)	24	
葉上 恒寿(平成14年卒)	26	
大場 三郎(昭和32年卒)	14	
浅野 謙一(昭和41年卒)	17	
増子 誠(昭和45年卒)	19	
福島 洋(昭和49年卒)	20	
磯部 勝彦(昭和52年卒)	22	
首藤 博敏(昭和57年卒)	23	
中野 葉子(平成1年卒)	25	
新井 大輔(平成18年卒)	27	
齋藤 諦三(昭和32年卒)	15	
横川 庄栄(昭和41年卒)	17	
菅野 春雄(昭和47年卒)	19	
河野 裕(昭和50年卒)	21	
丹野 武彦(昭和53年卒)	22	
渡邊 潔(昭和58年卒)	24	
高橋 輝昌(平成3年卒)	26	
今田 恵理子(平成21年卒)	27	
在学生の声		28
高村 省伍	28	
飯沼 久仁佳	28	
鎌田 有佳理	29	
留学生の声		30
BISANGWA	30	
候 瑩	30	
Andreas	31	
Ruzibuka	31	
支部報告		32
北海道支部「月山会」会長 菅原 義昭(昭和40年卒)	32	
最上支部 支部長 岩井 利夫(昭和45年卒)	32	
村山支部 支部長 栗野 省三(昭和44年卒)	33	
置賜支部 事務局長 石川 庄一(昭和52年卒)	34	
宮城県支部 支部幹事 高木 康守(昭和60年卒)	35	
関東支部 支部副会長 山本 千秋(昭和41年卒)	36	
関西支部 T・Y&K・O	37	
各地域の受賞の紹介		38
五十嵐 敬司(昭和32年卒)	38	
阿部 重彰(昭和48年卒)	38	
追悼		39
角田 憲一(昭和63年卒)	39	
菅原 敬(平成3年卒)	39	
長谷 修	40	
脇本 寛美(平成17年卒)	40	
訃報		41
鶴窓会事務局からのお知らせ		42
平成24年度事業並びに活動報告	42	
平成25年度代議員会報告	43	
事務局活動経過、平成25年度事業計画	44	
平成24年度決算・特別会計決算・特別会計積立金決算、平成25年度予算・特別会計積立金予算	45	
幹事及び代議員名簿、人事異動、編集委員	46	
平成24年度就職状況		47
著書の紹介		48
佐々木 喆彦(昭和28年卒)	48	
五十嵐 敬司(昭和32年卒)	48	
栗野 省三(昭和44年卒)	48	
菅野 春雄(昭和47年卒)	48	
編集後記		48

特集

学部学科編成について

農学部食料生命環境学科(初の1学科制)

学科長(学務委員長)

小沢 互



●設置以来の沿革

平成22年度入学生から、これまでの3学科から1学科に大きく変わりました。

農学部は昭和22年1月に山形県立農林専門学校として設置され、昭和24年5月山形大学農学部となりました。農学科、林学科の2学科でスタートした農学部は昭和32年に農業工学科、昭和39年に農芸化学科、昭和43年に園芸学科と学科増設を行い5学科になりました。大学設置基準の大綱化と相まって、平成3年には5学科を2学科(7講座)に、平成10年には2学科を3学科(6講座)に、そして平成22年に1学科(6コース)となりました。

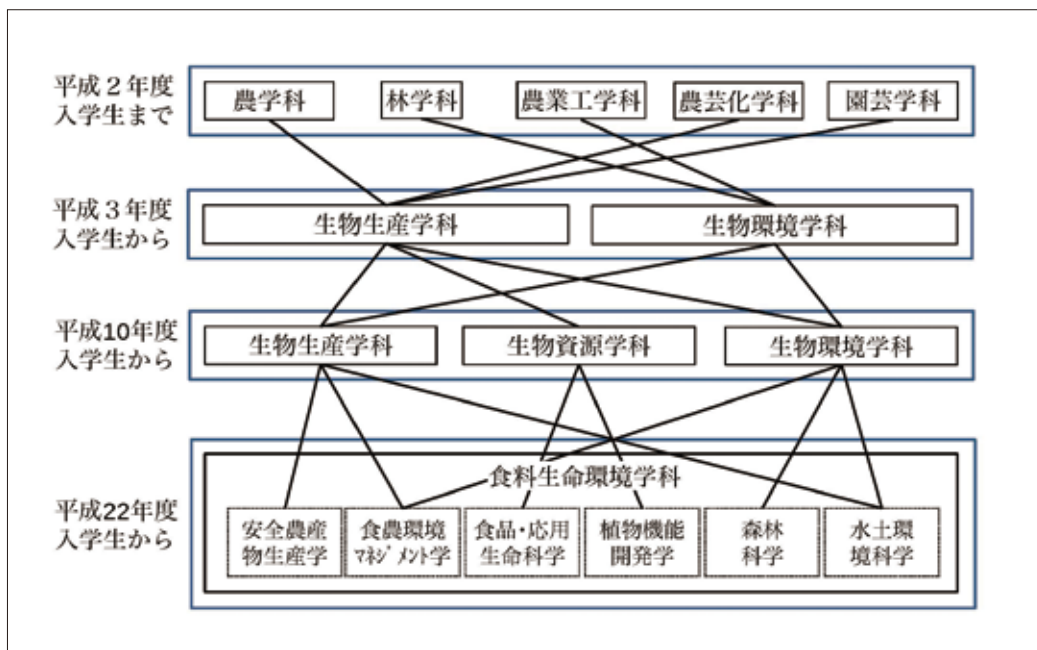


図1.農学部改組の変遷

●この改組の目的

この変遷について文部科学省に対する説明資料では以下のように整理しました。平成3年の2学科体制については「複数学科の統合再編による大学科、大講座体制への移行を目指し、「教育研究の総合化」を主たる目的」とし、平成10年の3学科体制については「地球規模での食料問題と環境問題を克服し、人類の持続的生存を保証するとともに、人類と生物の共存を実現しながら、生物資源の開発・利用を図るため、微生物・動物・植物等生物資源分野において、教育研究のより一層の充実を図ることを目的」としました。そして今回の改組は「現在、地球規模での食料の偏在と不足、地球温暖化の進行、生態環境の破壊、食の安全性の確保等の複雑な課題が生じており、これらの課題を未来に向けて解決しうる人材の要請が求められている。こうした課題に迅速にかつ柔軟に対応できる人材を養成していくためには、従来の分野ごとの教育システムではなく、より総合的な学習を行える教育システムに改める必要がある」としています。

平成22年改組の特徴
改組の特徴は以下の通りです。

(1) 学部一括入試

志願時に専門分野への志望動機が希薄な学生の増加に対応して、推薦・前期・後期入試を学部一括入試とし、入学後1年間の農学導入教育、基礎専門教育等の学習を通して進むべき専門分野への選択の機会を提供し、より学生の満足度の高い教育を行います。

(2) 分野横断型教育と 課題解決型教育

学部一括入試で学生を受け入れた後、1年次には農学コアカリキュラムや幅広い農学の基礎教育を実施し、2年次には学びたい専門コースを選択し、分野横断の教育体系である共通科目やコース連携科目を修得させ、3年次以降に課題解決型教育プログラムを実施する教育体制を構築します。

昭和22年1月	山形県立農林専門学校設置(農科、林科)
24年5月	国立学校設置法(昭和24年法律第150号)の公布により山形大学農学部設置(農学科、林学科)、附属農場・附属演習林設置
32年4月	農業工学科設置
34年4月	農学専攻科設置(農学専攻、林学専攻)
36年4月	農学専攻科「農業工学専攻」増設
39年4月	農芸化学科設置
43年4月	園芸学科設置、農学専攻科「農芸化学専攻」増設
45年4月	大学院農学研究科設置(農学専攻、林学専攻、農業工学専攻、農芸化学専攻) 農学専攻科廃止
47年4月	大学院農学研究科「園芸学専攻」増設
51年4月	附属農場、鶴岡市大字高坂字古町5番3号に移転
52年4月	特別附属施設「豪雪地林業実験施設」設置
62年2月	情報処理センター鶴岡分室設置
平成2年4月	山形大学・弘前大学を参加校として「岩手大学大学院連合農学研究科(後期3年のみの博士課程)」設置
3年4月	5学科を改組し、生物生産学科、生物環境学科の2学科設置
6年4月	岩手大学大学院連合農学研究科に帯広畜産大学参加
7年4月	大学院農学研究科の5専攻を、生物生産学専攻、生物環境学専攻の2専攻に改称
10年4月	2学科を改組し、生物生産学科、生物資源学科、生物環境学科の3学科を設置
14年4月	大学院農学研究科2専攻を改組し、生物生産学専攻、生物資源学専攻、生物環境学専攻の3専攻を設置
18年7月	附属農場、附属演習林を改組し、附属やまがたフィールド科学センターを設置
22年4月	3学科を改組し、食料生命環境学科の1学科を設置

山形大学農学部の沿革

● 社会のニーズに対応した多様なコース

6コースは農学教育に対する中長期的な社会的ニーズを柱に、在学生からの意見及び卒業後の進路などを考慮したカリキュラムとなっています。コースの特徴と主な進路は以下の通りです。

安全農産物生産学コース

地域や開発途上国で安全な農畜産物の安定生産を実現させるため、持続的で循環型の環境保全型農業生産の科学的理論や方法などについて、フィールドワークを取り入れた教育を行います。主な進路としては農学系公務員、市町村職員、JA職員、国際協力機構(JICA)職員、青年海外協力隊員、民間企業(農業関連)、大学院、農業自営者等です。

食農環境マネジメント学コース

食料、農業、農村、環境の維持・発展を目的に、農業経営やコミュニケーションの発展方策や地域活性化手法、食の安全を担保するフードシステムや循環型社会システム構築に関する理論や方策などの教育を行います。主な進路としては農学系公務員、市町村行政職員、JA職員、農業経営者、民間企業(都市農村交流関係ほか)、大学院等です。

食品・応用生命科学コース

生命科学の基礎とバイオテクノロジーを用い、食品と健康、高等動植物や微生物の機能解明・開発、食品・医薬品・環境産業等への展開利用、バイオマスやバイオエネルギーの高度な利用と応用などの教育を行います。主な進路としては大学院、民間企業(食品関係、飼種苗産業、化学工業、環境分析、農業サービス)、公務員(農芸化学系、食品衛生系)等です。

植物機能開発学コース

植物を対象に、遺伝資源学、植物制御化学、ゲノム科学に基づいて、その機能を遺伝子、タンパク質、代謝物質等のミクロな面から解析する方法、植物資源の高度な利用、ストレス耐性植物の開発等のマクロな面への応用などの教育を行います。主な進路としては大学院、民間企業（食料品・飲料・飼料製造業、種苗産業、化学工業、食品・環境分析事業、農業サービス）、J A職員、公務員（農芸化学系、食品衛生系）等です。

森林科学コース

循環型社会構築のため、森林の高度な利活用により、生物多様性の保全と持続的資源利用を推進し、低炭素社会の実現を目指すなど、様々な地球環境問題に関して、講義や多彩なフィールドワークを取り入れた教育を行います。主な進路としては林学系公務員・団体職員、民間企業（環境産業、紙パルプなどの林産業）、協同組合職員（森林組合、農協、生協等）、NGO（環境教育など）職員、大学院等です。

水士環境科学コース

自然と調和する農山村整備を実現するため、土台となる土と水の科学技術を環境問題との関わりで広い視野から学ぶとともに、農地を造り・水を確保し・維持・管理する一連の技術を修得するため、プロジェクト実習などを通じた実践的な教育を行います。主な進路としては農工系公務員、民間企業（環境コンサルタント、建設コンサルタント、建設業関連）、国際協力機関、土地改良関連団体職員、大学院等です。

●卒業までの流れ

図2のように、1年次は小白川キャンパスで基盤教育（導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目）を学ぶとともに、前期には農学入門、農学最前線、食料生命環境学概論の農学基礎科目を学び、後期にはコース名を付けた6つの概論を学びます。また、夏休みに開講される基礎農学セミナーは全員が2泊3日で鶴岡に来て研究室見学、農場・演習林体験実習、関連施設見学など2年次以降に学ぶ場を体験します。そして希望調査をもとに1年次終了時に各コースへ配属されます。

2年次以降は各コースでの教育が主になりますが、学科共通科目や複数コースで学ぶ科目を開講し幅広い知識も得られるように工夫しました。

近年、食、農、環境への国民の意識が高まってきていると言われます。これに対して山形大学農学部も教育・研究で貢献するため改組を実施しました。多様な要望に全て応えることができるわけではありませんが、これまでで不十分だった点を改善しました。

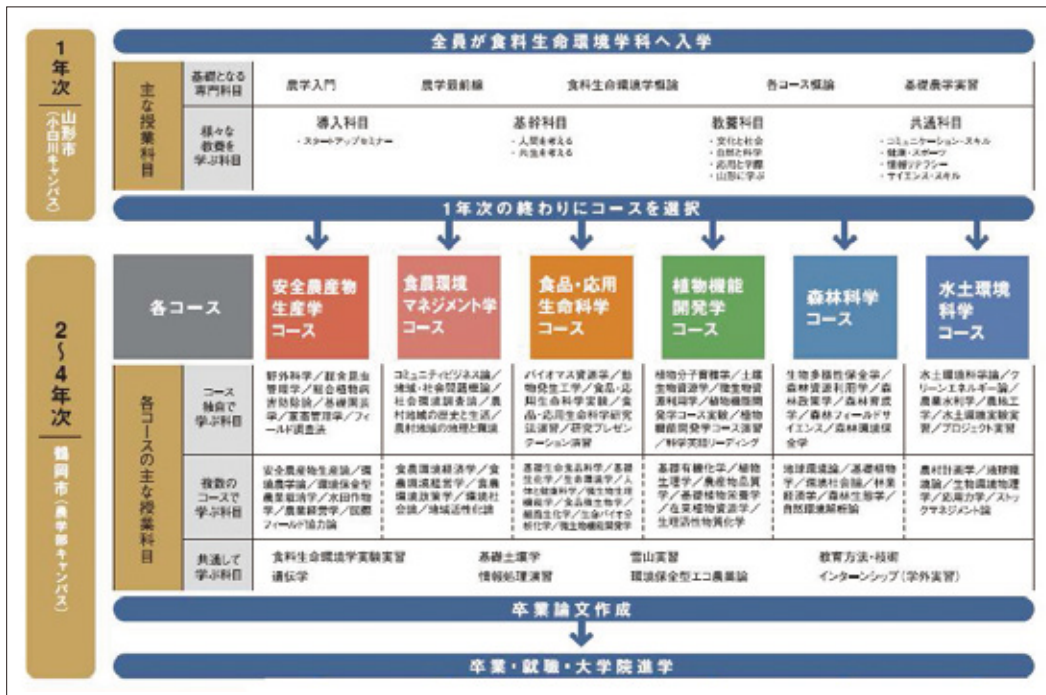


図2.卒業までの流れ